

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 6 卷第 35 号

第 35 週 (8 月 28 日 ~ 9 月 3 日)

発行年月日:平成18年(2006年) 9 月 8日

発行 :滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

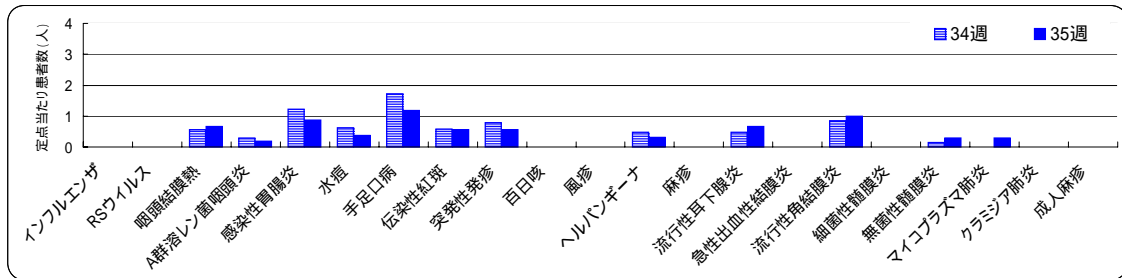
今週の感染症発生動向

A型肝炎の集団発生 腸管出血性大腸菌感染症が続発

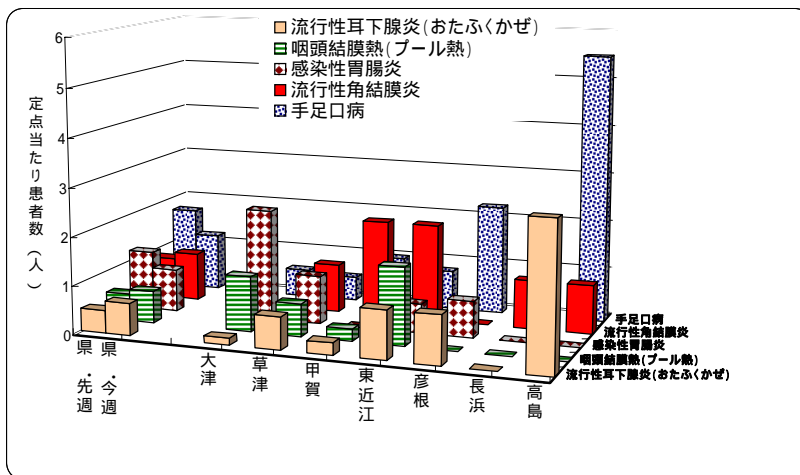
定点把握の対象となる五類感染症の発生状況は、先週(8月21日~8月27日)の報告数よりかなり少なくなっていますが、咽頭結膜熱(プール熱)、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、流行性角結膜炎、無菌性髄膜炎およびマイコプラズマ肺炎はやや増加しています。その他の疾患については減少または横ばいとなっています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

全数把握対象疾患では、三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症2名ならびに四類感染症のA型肝炎6名およびE型肝炎1名の届出がありました。また、A型肝炎の集団発生は、7月29日および30日に県内飲食店を利用したことによる食中毒事例です。

定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)



上位5疾患の保健所管内別発生状況(定点把握対象五類感染症、第35週、定点当たり患者数)



県全体における上位疾患の発生状況についてはグラフに示すとおりで、手足口病、流行性角結膜炎、感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎の順に多くなっています。流行性角結膜炎は大部分の保健所から報告されています。手足口病は、先週と同様に高島でかなり多くなっています。

感染症のミニ知識 ~ A型肝炎 ~

A型肝炎ウイルスに感染することにより引き起こされる一過性の急性肝炎で慢性化しません。また、治癒後には強い免疫が残されます。感染の機会、海外渡航時、発展途上国からの輸入食品の摂取、飲食店を介した場合等に多く見られます。

- ・**感染様式**: 経口感染
- ・**潜伏期**: 2~7週間
- ・**臨床症状**: 食欲不振、嘔吐、倦怠感、発熱、腹痛、黄疸など
- ・**治療**: 対症療法、急性期には入院し安静を保つ。
- ・**予防**: 輸入魚介類などの汚染の可能性がある食品を生食しない、汚染の可能性がある場合は十分な加熱(85℃1分)をする。調理前、食前、排便後などには石けんと流水による手洗いを十分にす。A型肝炎の流行地に旅行する時は、ワクチンを接種する。

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (35週)	累積報告数		平成17年報告数	
			滋賀 (35週)	全国 (35週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
二類感染症	コレラ	0	1	39	0	54
	細菌性赤痢	0	(*)2 4	302	(*)3 7	556
三類感染症	腸チフス	0	0	52	0	50
	腸管出血性大腸菌感染症	2	34	2,549	12	3,567
四類感染症	E型肝炎	1	1	52	0	40
	A型肝炎	4	6	250	1	168
	オウム病	0	0	15	1	34
	デング熱	0	0	31	1	73
	マラリア	0	0	46	0	66
	レジオネラ症	0	10	324	3	276
五類感染症	アメーバ赤痢	0	7	507	5	680
	ウイルス性肝炎	0	0	176	2	277
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	107	2	147
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	4	85	0	60
	後天性免疫不全症候群	0	7	858	7	1,161
	ジアルジア症	0	1	62	0	81
	梅毒	0	3	415	0	555
	破傷風	0	0	73	0	114
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	47	2	65
	急性脳炎	0	1	117	2	180

*1: 平成17年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2: 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分1件を含みます。

*3: 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分3件を含みます。

全国における全数報告感染症の発生状況 - 第35週(8/28～9/3) -

一類感染症: 報告なし	四類感染症: 日本紅斑熱 3例	五類感染症: アメーバ赤痢 8例
二類感染症: 細菌性赤痢 12例	つつが虫病 1例	ウイルス性肝炎 3例
コレラ 2例	デング熱 1例	ジアルジア症 2例
パラチフス 1例	マラリア 5例	梅毒 8例
三類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 257例	レジオネラ症 6例	破傷風 4例
四類感染症: E型肝炎 1例	日本脳炎 1例	後天性免疫不全症候群 20例
A型肝炎 6例	ライム病 2例	クロイツフェルト・ヤコブ病 3例
	レプトスピラ症 1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点*から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。*疾患により定点数は異なります。

(1) 疾病別・週別発生状況(第30～35週、7/24～9/3)

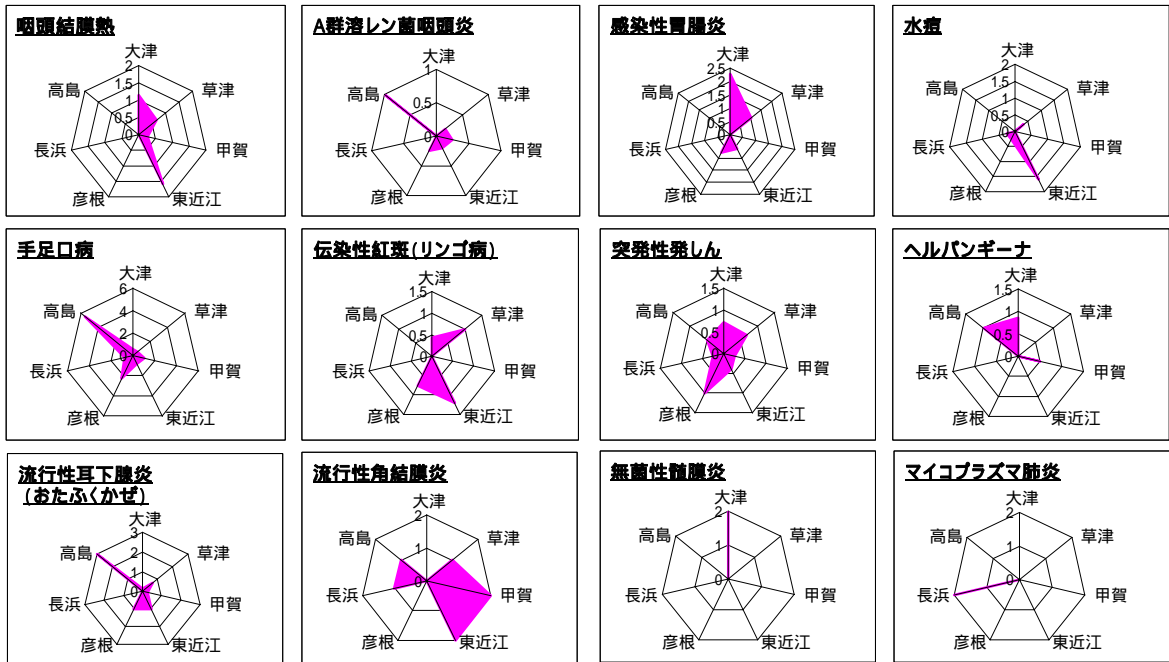
疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)										
	30週	31週	32週	33週	34週	35週	週				
	(7/24～)	(7/31～)	(8/7～)	(8/14～)	(8/21～)	(8/28～)	31	32	33	34	35
インフルエンザ	0	0.04	0.02	0	0	0					
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0					
咽頭結膜熱	0.84	0.81	0.84	0.38	0.56	0.66					
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.53	0.53	0.59	0.16	0.28	0.19					
感染性胃腸炎	1.09	1.25	1.00	0.78	1.22	0.88					
水痘	0.91	0.84	0.97	1.06	0.63	0.38					
手足口病	4.81	4.22	4.13	1.88	1.72	1.19					
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.94	0.66	0.44	0.34	0.59	0.56					
突発性発疹	0.59	0.56	0.34	0.38	0.78	0.56					
百日咳	0	0	0	0	0	0					
風しん(三日はしか)	0	0.06	0	0	0	0					
ヘルパンギーナ	2.00	1.38	1.00	0.28	0.47	0.31					
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0					
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.63	0.53	0.34	0.53	0.47	0.66					
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0					
流行性角結膜炎	0.43	1.43	1.00	3.57	0.86	1.00					
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0					
無菌性髄膜炎	0.29	0	0	0	0.14	0.29					
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0.29					
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0					
成人麻しん	0	0	0	0	0	0					

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第35週、8/28～9/3)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況(県全体)
	県	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.66	1.14	0.67	0.25	1.60	0	0	0	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.19	0	0.17	0.25	0.20	0.25	0	1.00	
感染性胃腸炎	0.88	2.29	1.00	0	0.60	0.75	0	0	
水痘	0.38	0	0.33	0	1.60	0.25	0.25	0	
手足口病	1.19	0.57	0.50	1.00	0.80	2.25	0.75	5.50	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.56	0.43	1.00	0	1.20	0.75	0	0	
突発性発しん	0.56	0.71	0.67	0.25	0.40	1.00	0.25	0.50	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0.31	0.86	0	0.50	0	0	0	1.00	
麻疹(成人麻疹を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.66	0.14	0.67	0.25	1.00	1.00	0	3.00	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	1.00	0	1.00	2.00	2.00	0	1.00	1.00	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0.29	2.00	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0.29	0	0	0	0	0	2.00	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

■ は定点当たり患者数が先週より増加、
■ は定点当たり患者数が非常に多い状態
 0 0.5 1 1.5
 定点当たり患者数(人)

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況：保健所管内別定点当たり患者数

咽頭結膜熱-----県全体では2週続いて微増となっており、大津および東近江でやや多くなっています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎-----東近江および高島では先週よりやや減少しています。

感染性胃腸炎-----東近江で先週よりやや増えていますが、県全体では微減となっています。

水痘-----県全体では先週より減少していますが、東近江では増加しています。

手足口病-----県全体としては減少傾向ですが、高島では多い状態が続いています。

伝染性紅斑-----草津および東近江でやや多くなっています。

突発性発しん-----先週多かった東近江、長浜および高島では減少していますが、彦根でやや多くなっています。

ヘルパンギーナ-----全ての保健所管内で減少または変化なしとなっています。

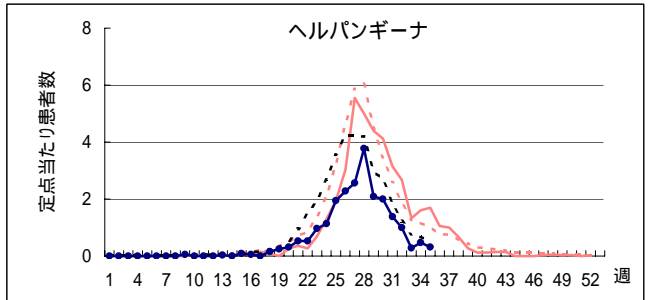
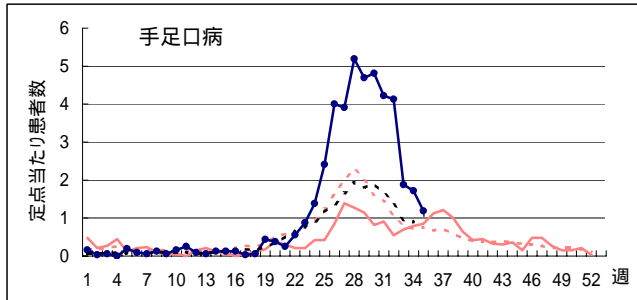
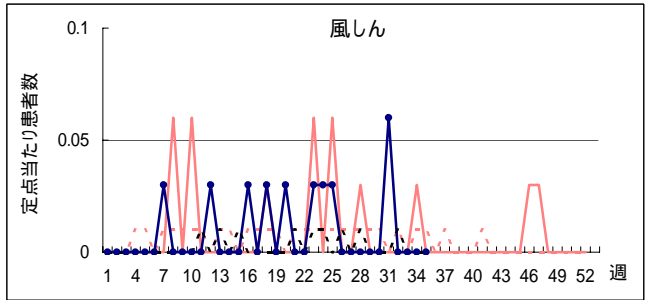
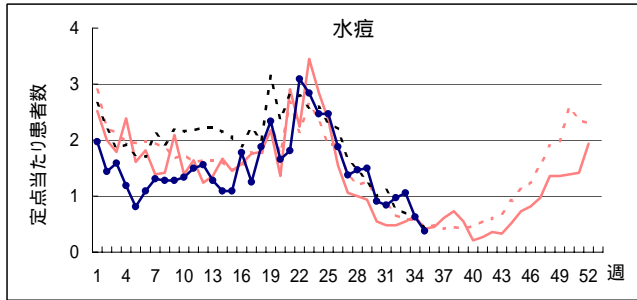
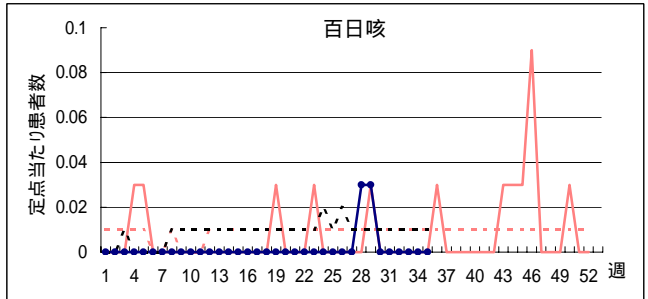
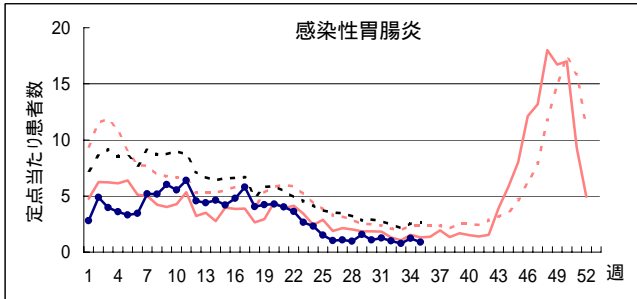
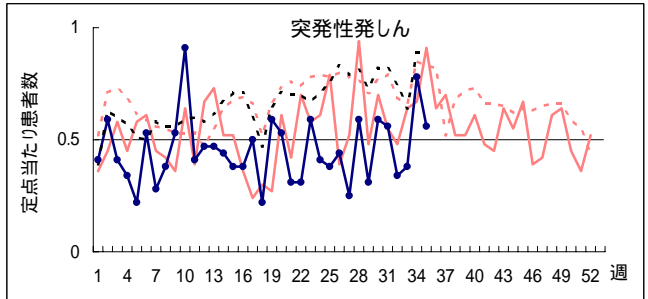
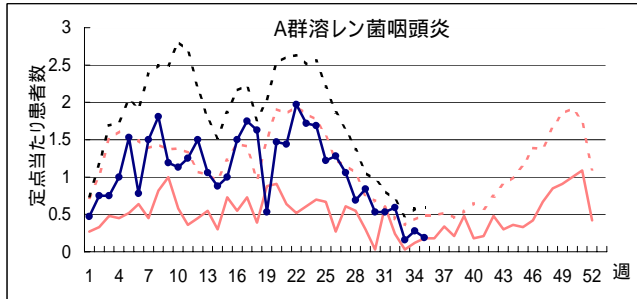
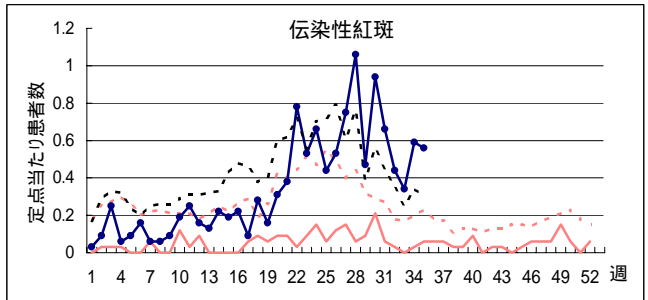
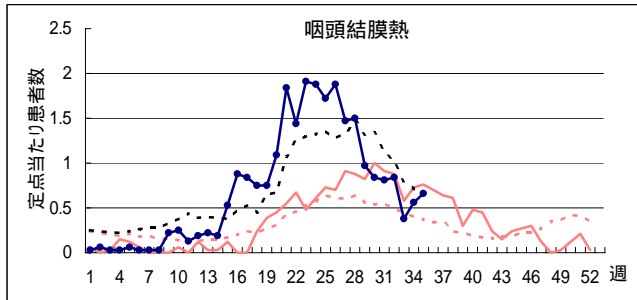
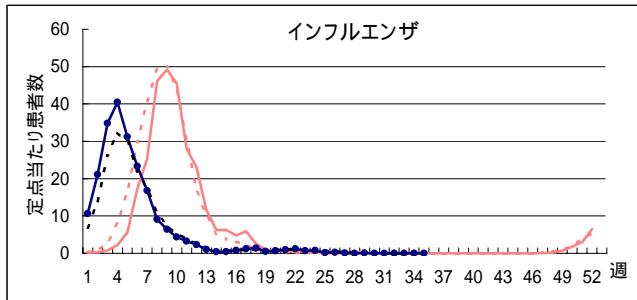
流行性耳下腺炎-----東近江で先週より減少していますが、高島ではやや多くなっています。

流行性角結膜炎-----大津および彦根以外の保健所管内から報告されています。

無菌性髄膜炎-----大津から報告されています。

マイコプラズマ肺炎-----長浜から報告されています。

疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第35週、H18.1.2～H18.9.3)



疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第35週、H18.1.2～H18.9.3)

H17 { 滋賀 ————
全国 - - - - -

H18 { 滋賀 ●——●
全国 - - - - -

